

ASPR

★ORIGIN drumhead★

本皮について

太古の昔、世の中に初めて太鼓が生まれた時から、ヘッドには動物の皮が使われてきました。

素朴な太鼓から歴史を経て軍楽隊の太鼓へ、さらにはオーケストラへと楽器の進化が進んでも、そこにあるヘッドは常に本皮でした。時は流れて近代へ。ドラムセットが登場した時にも張られるヘッドは本皮。

すでに、その時代には楽器の進化と共に皮の製造技術も昇華しており、楽器とヘッドのレベルはピークに達していました。素晴らしい楽器に本皮の豊かな音色。まさに黄金時代と言えるでしょう。

しかし、良いことばかりではありませんでした。素晴らしい音色と引き換えに、気候に左右されるピッチや、皮の強度などの問題から割れてしまうことが当然の事として起きていました。

当時としては日常であったそうしたことが、今から約60年程前、突然プラスチックヘッドが登場したことにより、一気に時流が変わりました。安くて、丈夫なヘッド。最先端テクノロジーの夢のようなヘッド。全てのジャンル、全ての太鼓がプラスチックヘッドを装着する時代が到来したのです。

今では、ほとんどの方が生まれたときからドラムヘッド＝プラスチックヘッドという認識です。むしろ、それ以外の選択肢は思い浮かべることができないでしょう。

しかし、クラシックの世界では約30年程前から、作曲された数百年前の音を再現するために、当時の楽器に近い形で演奏する事に注目されてきました。そして、その動きが世界中に拡がり、今や日本においても、プロフェッショナルオーケストラでは、常識的に全ての楽器(ティンパニ、バスドラム、スネアドラム)に本皮を使っています。

そうした動きが何故起こったのかと言うと、

- ①何よりも本皮の持つ何にも代えられない音色の素晴らしさを再認識させられた。
- ②現在の空調設備の充実により、温度湿度が管理され、気候に左右されずに使用出来る。
- ③国際的に最上級の本皮が世界各国で手に入る。

こうしたことが主な理由です。

実は、ドラムセットの世界でもこのような現象が起こっています。

キーワードは『ヴィンテージ』。

楽器もヘッドもこぞってこの言葉を製品のネーミングに使っています。つまり、全ては古きよき時代のその音を求めているのです。

どうしたらその音に近づくのか。答えはクラシックと全く同じではないでしょうか。

この『ORIGIN』の登場によって、究極のヴィンテージに向かう本皮志向は確実に加速されることでしょう。

ヘッド作り、54年の歴史を持つASPRが敢えて真の原点を探るべく一石を投じました。誰もが手軽に手にできる本物。だからこそ本物の価値があります。

本皮の芳醇な音の魅力、何よりいにしえの時代の息吹をからだ一杯感じてください。

The ultimate vintage 『ORIGIN』

〒3240618 栃木県那須郡那珂川町小口 83-4 株式会社アサプラ TEL : 0287-92-1600